

5四半期連続の改善をみせた日銀短観

ポイント① 製造業はコロナ以前の水準に回復

10月1日に発表された9月の日銀短観（日本銀行全国企業短期経済観測調査）によれば、大企業製造業の業況判断DI（ディフュージョン・インデックス、業況が良いという割合から悪いという割合を引いたもの）は、5四半期連続の改善をみせ、2018年12月以来の高水準となりました。国内外で旺盛だったIT関連需要や、原材料価格の上昇で価格転嫁の進んだ鉄鋼、石油・石炭製品などが景況感を押し上げた模様です。一方で、半導体の供給制約が深刻化している自動車の業況判断DIは、大きく低下しました。自動車の減産に対する懸念から、製造業の今後を不安視する声も散見されており、製造業の「先行き」DIは悪化しています。

ポイント② 非製造業は今後の改善に期待

大企業非製造業の業況判断DIは、5四半期連続の改善をみせるも、依然としてコロナ禍以前の水準に回復していない状況です。東京2020五輪・パラリンピック関連の警備需要で、対事業所サービスは大きく改善しましたが、8・9月は緊急事態宣言が2度延長されたことで、対個人サービスが前回の-31から-45へ大幅に悪化しました。一方で、10月1日より緊急事態宣言が解除されたこともあり、対個人サービスなどの「先行き」DIが改善しています。

ポイント③ 設備投資計画は上方修正

生産・営業用設備判断DIは4四半期連続で過剰感が後退しました。対して、2021年度の設備投資計画は、需要が旺盛なIT関連の設備投資がけん引し、市場予想を上回る結果となりました。設備投資の再開は、好調な業況判断DIと共に、今後の日本株を支える好材料となりそうです。

業況判断DI

		業況判断DI				
		（「良い」-「悪い」、%ポイント）				
		2021年9月調査				
	2021年6月調査	最近		先行き		
			変化幅		変化幅	
大企業	製造業	14	18	4	14	-4
	非製造業	1	2	1	3	1
	全産業	8	10	2	9	-1
中堅企業	製造業	5	6	1	3	-3
	非製造業	-8	-6	2	-7	-1
	全産業	-3	-1	2	-4	-3
中小企業	製造業	-7	-3	4	-4	-1
	非製造業	-9	-10	-1	-13	-3
	全産業	-8	-8	0	-10	-2
全規模	製造業	2	5	3	2	-3
	非製造業	-7	-7	0	-8	-1
	全産業	-3	-2	1	-5	-3

（注） 金融機関を除く。「最近」の変化幅は2021年6月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」との比較。

（出所） 日銀「短観」（2021年9月調査）より野村アセットマネジメント作成
(<https://www.boj.or.jp/statistics/tk/yoshi/tk2109.htm/>)

生産・営業用設備判断DI

		（「過剰」-「不足」、%ポイント）				
		2021年9月調査				
	2021年6月調査	最近		先行き		
			変化幅		変化幅	
全規模	製造業	3	2	-1	1	-1
	非製造業	1	0	-1	-2	-2
	全産業	2	1	-1	-1	-2

（注）、（出所）は業況判断DIと同じ。

設備投資計画（全産業、全規模）

	（前年度比、%）		
	2020年度	2021年度	
		計画	修正率
設備投資額*	-8.5	7.9	0.8
土地投資額	14.4	-16.0	6.4
ソフトウェア投資額	-6.2	14.3	-0.3
研究開発投資額	-4.8	5.7	-0.9

（注） 金融機関を除く。

（*） 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額は含まない。

（出所） 業績判断DIと同じ。

重要イベント	10月8日	日本経常収支（8月）
	10月28日	日銀金融政策発表、展望レポート（経済・物価情勢の展望）公表